

コミュニティ・スクール情報

2017年全国コミュニティ・スクール研究大会 in 岐阜に参加して

8月4日(金)、岐阜市で開催された「2017年全国コミュニティ・スクール研究大会 in 岐阜」に参加しました。

大会テーマ「地域の教育力を高め活用するコミュニティ・スクール ―コミュニティ・スクールと生涯学習の接点―」のもとで、意見発表、パネルディスカッション等が行われました。全国各地で取り組んでおられる参加者の意見も聞くことができ、学ぶべきことが多い1日でした。



意見発表等の概要は以下のとおりです。

【意見発表】「意外とやさしいコミュニティ・スクールのつくり方とそだて方」

岐阜市教育委員会教育長 早川三根夫

岐阜市では、24年度までに8校、そして25年度から27年度の3年間で62校がコミュニティ・スクールとなり、全学校への導入が実現した。

子どもの育ちに関係する研究報告書によると、子どもの育ちには親の接し方が最も関係が深い。また、地域の教育力は家庭教育と同程度の効果があるとも言われている。これらのことから、地域の教育力は子どもたちの成長に好ましい影響力を発揮できると考える。

今後、子どもの頃のリアルな直接体験の重要性はますます増大する。自然と触れ合う、仲間と群れる、親以外のおとなと接するなどの体験を効率的に学校教育のプログラムに組み入れることが大切で、それには、「リアルそのもの」である地域の教育力に頼り、活用することが有効である。

コミュニティ・スクールは、イベントを起こすことが目的ではない。地域が教育の場であり、地域の教育者だという視点を提供するためのものである。地域の人々が、生きがいの一つとして、居場所づくりとして、子どもを大切に、接していただける仕組みとしてのコミュニティ・スクールが存在し続けることこそが、真に効果を発揮することとなる。

【基調講演】「30年後の社会をつくる子どもたちのために ―コミュニティ・スクールといま私たちがすべきこと―」

東京大学大学院教授 牧野 篤

少子高齢、人口減少という人口の長期変動の中で、誰もが経験したことがない時代になってきている。そのような時代を生きていく子どもたちには、「自分で自分の人生をつくっていく力」が必要になってくる。

私たちは、次世代を生きる子どもたちが希望を持って未来を構想し、新しい社会をつくり出すこ

とができるよう励まさなければならない。その一つの試みが、子どもの成長を軸に、学校を核として、社会総がかりで子どもたちを支え、彼らを社会の主役へと育成しようとするコミュニティ・スクールと地域学校協働活動である。そこでは、学校はすでに過去の物質的な豊かさを追求する社会の制度ではなく、子どもたちがこの社会の豊穰性を実現するための制度へと組み換えられる必要がある。

私たちおとなにも、子どもたち自身が他者と手を取り合って、常に新しい価値をつくり出し、この社会を価値の豊穰性に定礎された信頼感で覆うことで、自らの新しい人生を、人々とともに作り出していくことを支える営みを進めることが求められている。

【パネルディスカッション】「始めよう広げようCS」

※主な意見

- ・地域だけでなく、「保護者」との連携、つながりを密にすることを忘れてはいけない。
- ・地域住民と教員が、それぞれの立場で、それぞれの役割をしっかりと果たすようになる。
- ・子どもたちの成長を軸として、学校、家庭、地域がそれぞれの役割を果たし、社会総がかりで取り組んでいくことが重要。そういう視点に立てば、CSの理解者は増える。
- ・職場体験も、CSの仕組みがあると、その体験だけにとどまらない関係が続く。
- ・CSは目的ではなく、手段である。
- ・学校や子どもたちにどう関わっていくか、それをおとながみんなで考えていきたい。
(児童、生徒から)
- ・おとなの皆さんが、私たち「子どもたち」のためにこんなにたくさん集まっていたに驚きました。このことを、みんなが知らないといけないと思います。
- ・自ら動ける、関わりを持つおとなになります。



開会にあたっての岐阜市長のあいさつの中に、「地域住民に地域を教育の場として理解していただき、地域の教育者になってもらいたい。」という言葉がありました。日野町においても、町民のみなさんが、地域の教育者として、今まで以上に子どもたちに関わっていただけるようになれば、子どもたちがより健やかに育ち、また、これからの社会をつくっていく力を身につけることができているのではないかと思います。

そのようなことをしていただく仕組みとしてのコミュニティ・スクールです。学校教職員、保護者、地域の皆様の理解を得ながら、平成31年度からの導入に向かっていきたいと思っております。

日野町休日活動支援事業「ひのっこ Holiday School」

本町の児童、生徒の多くは、学校の授業にまじめに取り組んだり、いろいろな活動に熱心に取り組んだりしています。また、中学生は全員が部活動に所属し、課業日のみならず休業日も熱心に活動に取り組み、小学生の多くも、テニスや野球、金管バンドなどの活動に取り組んでいます。他にも、町民ミュージカルや地域の活動、習い事等に積極的に取り組んでいる児童、生徒も多くいます。

しかし、一方で、家庭で過ごす時間の多くを、ゲームやテレビの視聴、インターネットの利用などで費やしている実態もあり、学校、家庭、地域の連携のもとに、生活習慣の見直し、改善を図っていく必要があります。その要因として、帰宅後あるいは休日に、地域と一緒に活動できる児童、生徒が少ないこと、またそのような場が地域に少ないことがあると考えます。



そこで、地域、保護者、学校、行政が一体となって、「日野町休日活動支援事業」として土曜日、日曜日、長期休業日等を利用した豊かな体験活動等を進め、日野町の子ども達の健全な育成及び学力の伸長を図ることとしました。地域の皆様の、ご理解とご協力をお願いします。

※昨年度まで「日野町土曜学習」として取り組んできましたが、本年度より、実施日を土曜日に限定しなくしたり、ボランティア活動、英語寺子屋を、この事業の活動として一体的に実施したりすることとしました。

日野町休日活動支援事業「ひのっこ Holiday School」

— 土曜日、日曜日、長期休業日等を活用した豊かな体験活動等の推進 —

＜目的＞

- (1) 子ども達に、自ら考え、創造していく楽しさを味わわせるとともに、1日1日を有意義に過ごしていこうという意欲と態度を育てる。
- (2) 年間を通じて授業内容の一層の充実を図るとともに、子ども達の学習習熟度を高める。
- (3) 保護者、地域、学校、行政とで課題の共有化を図り、連携して子ども達を育てていこうという意識と実践力を高める。

体験教室

【月1回～学期1回程度】

【内容】（平成28年度実績）

- ・図書館ジュニアスタッフ
- ・木のおもちゃづくり教室
- ・自然観察会
- ・きのご鑑定会
- ・たこづくり

【参加者】 小・中学生希望者

【開催場所】 図書館、公民館等

日野町図書館

日野町公民館

ボランティア活動

【月1回】

【内容】

- ・高齢者誕生月プレゼントづくり
- ・高齢者訪問 など

【参加者】 小・中学生希望者

【開催場所】 日野町公民館 など

日野ボランティア・ネットワーク

土曜授業

【各学期1回】

【内容は各学校で計画】

- (例)
- ・地域、町の行事への参加
 - ・地域での活動
 - ・参観日、講演会
 - ・学校行事

※通常の授業日として扱います

黒坂小

根雨小

日野中

英語寺子屋

【月2回】

【内容】 英語教室

【講師】 スカリー悦子先生（前九州大学教授）

【参加者】 小5、6及び中1、2の希望者

【費用】 1,000円/月、教材費（実費）

【開催場所】 山村開発センター

教育委員会

※内容の詳細及び募集要項等は、別にそれぞれの機関から案内します。

学校支援ボランティアの皆様にお世話になった活動 ～6月～

1学期は、地域と学校との連携・協働のもとに、教育環境整備支援（鵜の池キャンプ場周辺草刈・校地内草刈）や教育支援活動（学習活動の見守り・安全指導や学習指導の補助）、学校行事に係わる支援（運動会演技の指導・校外学習や交流学習の引率補助）などが行われました。

第2回マラソン大会『自分の記録に挑戦しよう』一日野中―（6月8日）



ペースメーカーとして支援いただいた長住さんを先頭に走る一人一人。その成果は、マラソントイム記録に表れていることが分かり、長住さんをはじめ応援団みんなの喜びになりました。



地域の環境を教材に活かす！ 自然環境に恵まれている地域を誇る！



ここは、日野川流域でもカヌー教室のできる最高の場所です。
（カヌー指導者より）

カヌー教室 ―黒坂小・根雨小4年 交流― （6月13日）

川の流れ、水量にも恵まれた上、プールでの予備練習も功を奏し、下流に流されることもなく楽しんでいました。



土曜授業『ハッチョウトンボ観察』 ―黒坂小― （6月24日）



20年前、滝山公園の湿原で発見された世界最小のトンボ！

日野高との交流『田車押し』―黒坂小3・4年―（6月22日）



手で操りながら田車を押して田の草取りをした後、水に浮いた草を集める児童！
高校生の背中を見て、始めました。

ひのっこ Holiday School

休日に親子・家族で、湿原に生息する生き物観察を満喫しました。

（公民館活動）